

図書館の窓から



2013.7 No.141



栃尾の石仏「道祖神」 鈴木 孝枝／手漉き和紙にプリント

【特集記事】

- ◆私の一冊 栃尾美術館で展覧会が開催される写真家 鈴木 孝枝 さん 3p
- ◆ずっとかたわらに本のある暮らしを 長岡市子ども読書活動推進計画 4～5p

館長通信

～ 着任に当たって ～

4月1日に中央図書館長に
着任しました金垣孝二と申し
ます。

「図書館法」では「館長は、
館務を掌理し、所属職員を監
督して、図書館奉仕の機能の
達成に努めなければならない」
と定めています。

『図書館用語集』では「行政
面での責任者であると同時に
図書館専門職員の総括責任者
でもあるので、資料の収集・
組織化・運用についての専門
性をもつことが要求される」

と記されています。

常に変化する社会情勢の中
で、長岡市立図書館の抱える課
題は、広報の充実、システムの
更新、読書推進策や電子図書へ
の対応、災害対策、老朽化対策、
図書館同士の連携など多岐に
わたっています。

また、昨年12月に新潟市に
おいて開催された研修の基調
講演「ヒト・マチ・文化 そし
て図書館の未来」では、講師の
昭和女子大学大学院教授の大
串夏身氏から「地域の知的な基

盤づくりは図書館が担う」と
いう言葉がありました。

今後、既存の課題解決はも
ちろん、新しいサービスにも
対応し、図書館員全体で取り
組む図書館ビジョンをつくり、
実現することが前館長から引
き継がれた、館長の責務と考
えています。（金垣 孝二）



文書資料室だより

長岡市史双書 No.52

『長岡市公会堂 文化の殿堂がみた昭和の長岡』 発行

長岡市公会堂は、表町で旅
館業を営む大野甚松の寄附に
より、大正15年(1926)7月、
宝田公園内に建設されました。
公園の緑の中に高くそびえる
塔の景色を、記憶している人
もいることでしょう。

昭和3年(1928)、東京帝国
大学名誉教授・小金井良精と
ともに墓参のため来岡した妻・
喜美子は、随筆「越路の秋」(『森
鷗外の系族』岩波書店)の中
で竣工当時の公会堂内部の様
子を具体的に書いています。
それによると、幅約25メート
ルの広い階段は履物の汚れが
落ちるように工夫されていた
り、1500人収容の大講堂は
風通しや音響効果まで計算さ
れていた等、地方都市には
当時稀有な近代建築だったこ

とがわかります。県内外はも
とより、時には外国から著名
人を招くこともあり、音楽会
に美術展覧会・講演会等々「文
化の殿堂」と呼ばれるにふさ
わしい様々な催しが随時開か
れ、広く市民に親しまれてい
ました。

長岡市史双書No.52『長岡市
公会堂 文化の殿堂がみた昭
和の長岡』では、公会堂の草
創期から戦後の復興期までの
変遷と、役目を終えて厚生会
館と交代するまでの30余年の
あゆみを、絵葉書や新聞記事・
行政資料等の具体的な記述を
もとに振り返ります。

公会堂のあった場所は厚生
会館を経て、平成24年4月、
シティホールプラザ・アオーレ
長岡として生まれ変わりました。

た。オープンから1年が経ち、
多くの市民が集う場所として
親しまれるようになったアオ
ーレ長岡は、まさに「平成の
公会堂」といえるでしょう。
文書資料室では、アオーレ長
岡を会場に「長岡市史双書を
読む会(全4回)」を7月に開
催します。

(桜井奈穂子)



▲「(長岡名勝) 公会堂」
(柏崎市立図書館所蔵)

長岡市史双書No.52『長岡市公会堂 文
化の殿堂がみた昭和の長岡』は、文書資
料室・中央図書館等で購入できます。
(頒布価格 1,500円)

私の一冊 私の一冊

『日本の美のかたち』

神林 恒道／編

世界思想社



写真家 鈴木 孝枝さん

撮影のために、京都の金閣寺と銀閣寺へ通って
から約10年になります。

長かった撮影も終わりを迎え、自分のための思
い出にと、金閣寺近くの土産物店に立ち寄りまし
た。店主に「何か土産が欲しいのですが」とたず
ねたところ「新潟の人ならこれです。」と取り出
してくれたのが『日本の美のかたち』という本で
した。「この本の編集にたずさわり、自らも執筆
している人が新潟市出身です」といわれ、すすめ
られるまま自分への土産としました。

この本には、日本の芸術や美意識について分か
りやすく書かれていました。〈「道」としての芸術〉
〈表現の諸相〉〈生活の美〉と続き、最後の項目
が〈「芸道」から「芸術」へ〉です。この項で岡
倉天心の芸術思想について論じている神林恒道大
阪大学教授が、新潟のご出身でした。

岡倉天心は、私も以前から興味があり『茶の本』
などを読んでいました。

幕末の動乱期から明治初期、日本は、西洋化を
急ぐあまり、伝統的美術を軽んじ、伝統工芸品の

世界に大きな損害を与えてきました。

そうした風潮を憂えた天心は、明治17年、フェ
ノロサと法隆寺夢殿の秘仏・救世観音の有名な開
扉に立ち会うなど、古美術の調査・保存に尽くし
たのです。

「進歩という信仰の上に成り立ってきた近代の
理念が再び揺らぎ始めてきた近現代において、天
心の思想は、芸術のみならず広く文化一般の領域
にわたって考えなおされるべき時期にきてい
る。」そう語る神林教授の言葉を、私は石仏の道
をたどりながら、何度もかみしめました。

私は、時どき頭の中がからっぽになることがあ
ります。そんなとき、この本の中から想像力や発
想力を高めるヒントをたくさんいただきました。
今でも読み返している大事な一冊なのです。

神林教授は、私がこの本と出会ってから数年後
に、新潟市にある會津八一記念館の館長になられ、
現在に至っております。また、新潟市に6月4日
にオープンした「にいがた文化の記憶館」館長に
就任されています。



鈴木 孝枝（すずき・たかえ）

1946 年新潟市生まれ。写真の仕事をしていた父から手ほどきを受ける。
1982 年広告代理店の写真部を退社し、写真事務所を設立。日本写真家協会
会員。新潟市観光写真コンテスト審査員。日本夕日写真大賞審査員。十日町
産業振興功労賞。写真集に『紙・神』『酒造りの里』や、今年6月に新潟日報
事業社から発行された『石仏巡礼』がある。

今夏、鈴木さんの写真展が栃尾美術館で開催されます。

7pの情報をご覧ください！



ずっとかたわらに本のある暮らしを



～長岡市子ども読書活動推進計画特集～

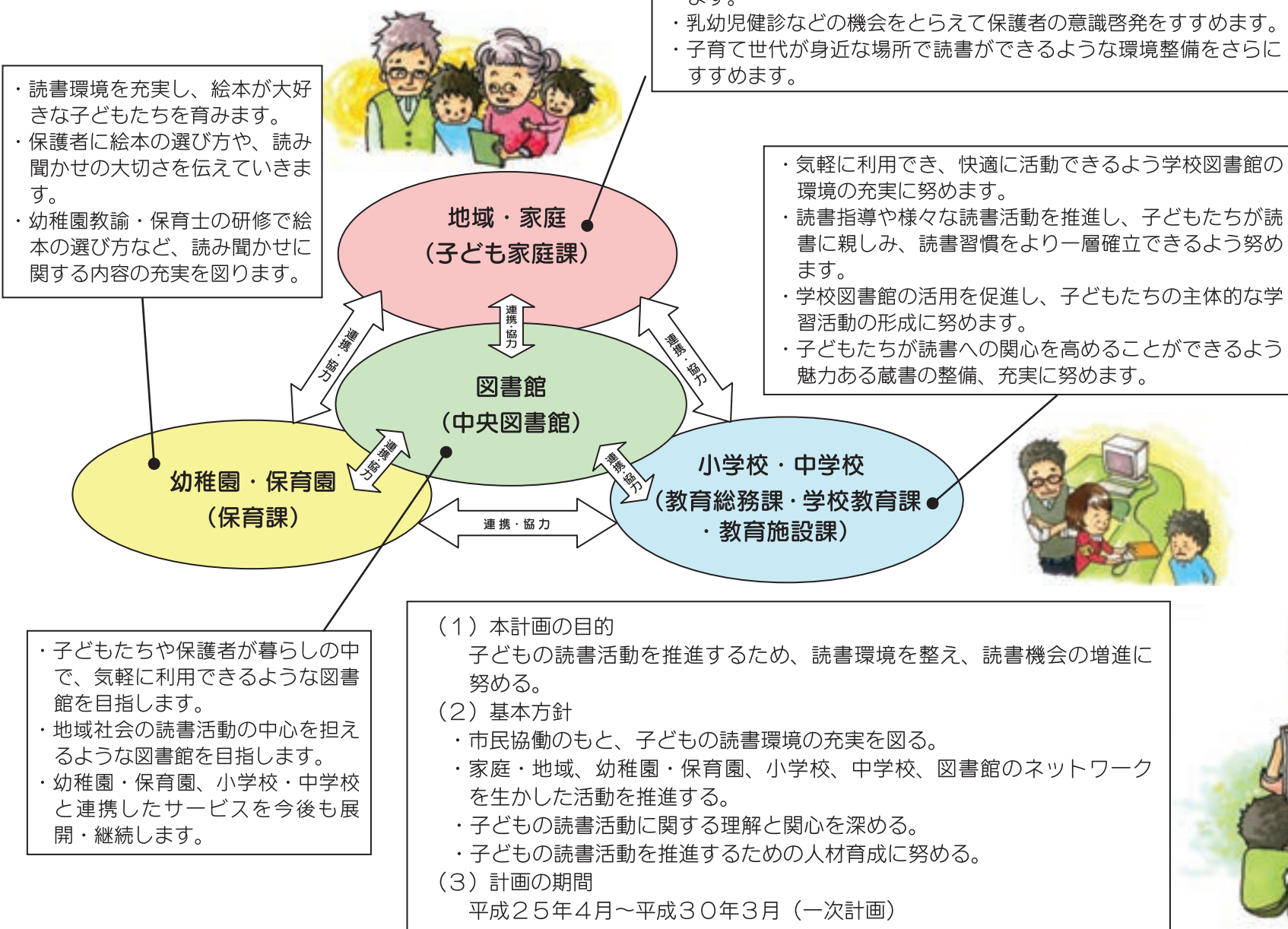
平成24年度末、長岡市では、読書を通じ、次世代を担う子どもたちが豊かな経験をできるよう、「長岡市子ども読書活動推進計画」を策定いたしました。

長岡市立図書館では、これまでも子ども向けの読み聞かせやイベントのほか、学校への調べ学習支援や、学級文庫用の図書の貸出、子育てサークルへの出張おはなし会、ブックスタート事業など、様々な活動を行ってきました。また、各学校、各幼稚園・保育園においても、朝読書や、

読み聞かせなどの読書活動がされてきました。しかし、これからは子育てや学校に関わりを持つ関係課と、図書館が更に連携をして、子どもの読書環境の整備に関わる事業を進めていきます。

また、子どもだけではなく、それを取り巻く大人たちにも、子どもの読書について、理解と関心を深めてもらうことも、本計画が目指しているところであります。

計画実施に向けた取り組み



長岡市子ども読書活動推進計画策定に寄せて

長岡市教育委員会 教育総務課財務係長 大井 寛之 (本計画関係課ワーキンググループメンバー)

子どもの読書離れが進んでいるとよく耳にするが、現実はどうなのか。子どもたちにとって理想的な読書環境について日ごろから思い巡らしているなか、子ども読書活動推進計画の策定に携わることとなった。教育委員会各課の担当者が集まって内容を検討することになったのだが、これまで担当課の垣根を越えて議論を交わす機会もなかったため、まさに暗中模索のスタートであった。

しかし、いざ蓋を開けてみれば当初の心配は杞憂に終わり、子どもたちの読書活動の推進という

ひとつの目標に向かって熱い思いをぶつけ合い、良いアイデアが次々と湧き出てきた。この時、各課の思いであるいくつかの「点」がお互いに結びつき「線」となり、連携しあうことで「輪」になったと実感した。この「輪」の結晶こそが、長岡市子ども読書活動推進計画である。

この計画が行政の取り組みだけに終わることなく、家庭や地域を巻き込み、子どもに関わる全ての人のチカラで「ずっとかたわらに本のある暮らし」が実現されるよう切に願う。

子どもと本をめぐる3冊



『小学生が大好きになる楽しい子どもの本ベスト200』(山本 省三/監修 メイツ出版) 019.5 シ

今時の子どもたちが「面白い」と思う本とは、どんな本でしょうか？昔から読み継がれてきた本は、どうやら今の子どもたちにとっても、面白いもののようです。最近出たばかりの本とも取り混ぜて、200冊の本が紹介されています。



『ひげうさぎ先生の子どもを本嫌いにする9つの方法：親と子と教師のための読み聞かせブックガイド』(ひげうさぎ/著 柘植書房新社) 019.5 ヒ

子どもを「本嫌い」にするのは、とっても簡単なことです。どれもこれも、私たち大人がついついしてしまいそうなことばかり。せつかく読書の面白さを知った子どもたちを、寄ってたかって本嫌いにしてしまうのは、私たち大人が原因かも…。



『子どもとシニアが元気になる絵本の読み聞かせガイド：現役シニアボランティアが選んだ「何度でも読んであげたい絵本」101選』(世代間交流プロジェクト「りぷりんと・ネットワーク」/編著 藤原 佳典/監修 ライフ出版社) 019.2 コ

核家族化が進む中、シニア世代と子どもたちが触れ合える機会づくりとしても、シニア世代の読み聞かせボランティアが注目されています。ボランティアを始めるにあたっての、かなり実践的なアドバイスも載っているので、初めての方にとっては心強い手引きとなりそうな一冊です。



子どもたちの「読書」については、周りの大人たちである私たちが、しっかりと見守っていく必要があります。子どものうちに、「何でも面白い本を読めば良い」というものでもなければ、「たくさん読めば良い」というものでもないからです。子どもたちには、大人になってからも生きる力になるような、素敵な読書体験をしてもらいたいものです。

この計画の策定をきっかけとして、周りの大人たちが子どもが置かれている読書環境について、その大切さに考えを巡らせ、手助けをしてあげたいという意識が広がればと考えています。



に ほ ふ

水島爾保布（1884～1958）は、江戸時代の長岡の風景や風物を、情緒豊かに描いた日本画家（号・無弓）として知られています。明治17年東京根岸生まれ、東京美術学校日本画科卒業、大正4年（1915）大阪朝日新聞社勤務。翌年第1回漫画展に出品。辞職後、自らの旅をもとに仕上げた『東海道五十三次』を刊行。同8年（1919）『人魚の嘆き・魔術師』（谷崎潤一郎・著）では妖艶なさし絵が話題になります。翌年には第2回帝国美術院展覧会に入選。爾保布はジャンルにこだわらない自由な表現活動を広げて行きました。

大正の終わり頃、「北越雪見の旅」で仲間と初めて長岡を訪れた爾保布は、雪の夜の美しさに感動し、この地の風土や歴史に興味をもちます。そして戦後、60代で長岡に移住しました。

昭和26年（1951）、互尊文庫で爾保布の長岡近郊風景画展を開催。4年後に同館の美術図書選定委員に選ばれます。爾保布は先人の残した長岡藩時代の絵図や、周囲の人々との交流を通し、豊かな想像力で数々の作品を生み出しました。

今回紹介する画は、明治期の長岡花火大会で、左端に木製の長生橋が見えます。土手には提灯がぶら下がり、打ち上げられた花火に見とれる観客たち。時代は違っても、一年ぶりの花火大会を楽しむ気持ちは、昔も今も変わらないようです。

爾保布の長岡時代の作風は、自然体で、庶民の表情は屈託なく陽気に笑っています。時をさかのぼり、優しいまなざしをそそいで描いた長岡の姿。私たちが郷土の面影をしのぶ大切なよすがとなっています。（小熊よしみ）

越後文学さんぽ ～新潟出身の著者をクローズアップ～

今回は、多感な少年期を長岡で過ごし、日本の詩壇・文学界に多大な影響を与えた長岡ゆかりの詩人、堀口大學を紹介します。

堀口 大學（ほりぐち・だいがく）（1892－1981）

詩人。芸術院会員。文化勲章受章者。明治25年1月8日東京生まれ。堀口家は、元長岡藩士の家系。外交官であった父九萬一の海外赴任にともない、青年期の十数年を海外で暮らす。フランス文学に傾倒し、マリー・ローランサンやジャン・コクトーらと親交。訳詩集『月下の一群』や詩集『月光とピエロ』『砂の枕』歌集『パンの笛』などを発行し、評価を受けた。

参考：『長岡歴史事典』長岡市／発行・『講談社日本人人名大辞典』講談社／発行



しあわせ
『幸福のパン種』
堀口大學詩集 増補版
堀口すみれ子／編
かまくら春秋社

今回紹介する資料は、平成5年刊の初版に新たに2詩を加えた増補版として出版された、堀口大學の詩集です。この詩集には、娘のすみれ子さんが数多くの作品から選び抜いた堀口大學の詩及び翻訳詩が72点収録されています。短い詩が多いのですが、タイトルが示すとおり、何度読みかえしても新鮮で、そして、心を温め慰めてくれる詩が並んでいます。大學詩の入門書としては、最適の1冊ではないでしょうか。お友達・ご家族へのプレゼントとしても、お薦めしたい1冊です。

新たに加えられた2詩「新春、人間に」「そして今」は、収録された他の詩とは異質ですが、大學の心情がストレートに響いてくる作品で、堀口大學という人物の深さを再認識させてくれます。（徳永 馨）



『十一面観音巡礼』

白洲 正子／著 新潮社

著者が訪ねた各地の十一面観音像が、20体以上も紹介されています。写真ではありますが、観音像の美しさには胸に迫るものがあります。寺社への地図がついていきますので、お気に入りの仏像めぐりの旅行はいかがですか。

(徳永 馨)



『愛しき仏像 ガンダーラ美術の名品』

栗田 功／著 二玄社

ガンダーラは、かつて紀元前に現在のパキスタン北西部にあった、古代の国です。日本の仏像の原型がガンダーラ仏教美術にあります。姿勢は同じでありながら、西洋風の顔立ちであるところに注目です。(西 和美)



『壊れても仏像』

文化財修復のはなし

飯泉太子宗／著 白水社

仏像が何百年の時を超えてその美しい姿を保つには、修復が欠かせません。本書では、数々の文化財修復に携わってきた「仏像のお医者さん」である著者が、ユーモアを交え、修復の面白さを伝えてくれます。(高橋 知香)



『にっぽん心の仏像100選』上・下

NHK「にっぽん心の仏像」プロジェクト／編

日本放送出版協会

奈良・京都を中心に、各地の仏像と、その仏像に向き合う「人」に焦点を当てた一冊。

仏像に心の安らぎを求める人、美形の仏像にドキッとする人など、向き合い方は十人十色。さっそく仏像を見に行きたくなります。

(古田島亜衣)

『仏像が来た道』

杉山 二郎／著 青土社

仏教の歴史とともに、仏陀が塔や法輪といった象徴物で表されていた時代から、人の姿をした仏像として造形され、様々な変遷を辿る様が紹介されています。豊富な写真と論文の引用が随所に差し挟まれており、読みごたえのある一冊です。(宮谷 潔子)

●○展覧会情報●○ 鈴木孝枝写真展 -越後路 40年の眼差し-

7月13日(土)～9月10日(火) 月曜日休館(祝日の場合は翌日)

新潟市在住で栃尾の石仏をはじめ、県内の風景を撮り続ける鈴木孝枝の作品約150点を紹介。

〈関連イベント〉要観覧券 ※観覧料 一般400円／大高生200円／中学生以下無料

●ギャラリートーク(展示解説) 7/13(土) 8/18(日) 9/8(日) 14時～15時

●ピアノコンサート ～オール・ショパンプログラム～

7/21(日) 14時～15時 ピアニスト：佐藤園子(新潟市在住)

【お問い合わせ】栃尾美術館：TEL. 0258(53)6300



栃尾の石仏「馬頭観音」

イベントガイド（7月～9月） ※全て参加無料

【読者のつどい】 互尊文庫1階 児童室 19:00～20:30

テーマの本の感想を話し合い、人生観や文学論などを自由に語り合う会です。

7/26(金)『禿鷹の夜』逢坂 剛／著 8/23(金)『夢見通りの人々』宮本 輝／著

【子どもの本を読む会】 中央図書館2階 講座室2 10:00～

子どもの本に興味がある方が集って感想等を語り合う会です。

7/10(水) テーマ「俳句・短歌」 9/11(水) テーマ「中学生におすすめの本」

【映画会】 中央図書館2階 講堂 14:00～

7/3(水)「劇団四季 鹿鳴館」(2009年 日本) 162分

7/27(土)「忍たま乱太郎」(2011年 日本) 100分

8/6(火)「TOMORROW明日」(1988年 日本) 106分

8/21(水)「夢追いかけて」(2003年 日本) 109分

9/6(金)「トロッコ」(2009年 日本) 74分

9/18(水)「マイライフ・アズ・ア・ドッグ」(1985年 スウェーデン) 102分



【山下清展 関連イベント】 中央図書館 講堂ほか

①朗読会 山下清の遺作「東海道五十三次」を読む **要申込**

日時：7/15(月・祝) 午後2時～3時 定員180名

朗読：加藤 博久氏

②山下清展 記念講演会「家族が語る山下清」

日時：7/21(日) 午後2時～3時30分 定員180名 **要申込**

講師：山下 浩氏（山下清の甥・山下清作品管理事務局代表）

③山下浩氏によるギャラリートーク 美術センター **申込不要**

日時：7/20(土) 午後2時～・4時～、7/21(日) 午前11時～

※詳しくは、市政だより・当館ホームページ等をご覧ください。

【長岡市史双書を読む会「長岡市公会堂とその時代」】 文書資料室

長岡市史双書№52『長岡市公会堂 文化の殿堂がみた昭和の長岡』をテキストに
長岡の昭和をひも解きます。会場：アオーレ長岡

①7/4(木)、②7/12(金)、③7/17(水)、④7/26(金) 午後2時～3時45分

参加費：1,500円（テキスト代） ※詳しくはお問合せください。

図書館ニュース

「生誕90周年記念 山下清展」

お見逃しなく！



「日本のゴッホ」「放浪の天才画家」と称された山下清の生誕90周年を記念し、彼の生涯を「長岡の花火」等の代表的な貼絵を中心に、ペン画・油彩画・水彩画や貴重な遺品等約180点でたどります。昨年から全国を巡回し、約30万人を動員した話題の展覧会です。小さなお子様からお年寄りまで、ご家族で楽しめる内容となっています。長岡大花火大会とあわせてご覧ください。

会 期：7/13(土)～8/8(木)

※休展日：7/16(火)・7/22(月)・7/29(月)・8/5(月)

時 間：午前10時～午後6時

(初日は12時開場)

※観覧券の発売は午後5時30分まで

会 場：美術センター（中央図書館2階）

観覧料：一般700円／大高専門生300円

中学生以下無料

※栃尾美術館「鈴木孝枝写真展」との観覧料相互割引あり。詳しくはお問い合わせください。

主 催：長岡市・長岡市教育委員会

関連イベント：左欄をご覧ください。



山下清の傑作
「長岡の花火」貼絵
1950(昭和25)年
©清美社

平成25年7月1日発行

編集・発行 長岡市立中央図書館

住 所 長岡市学校町1-2-2

編集員 長瀬 貴子 諏佐 志保 河田 利美
高橋 知香 高橋 真弓

メールアドレス lib@city.nagaoka.niigata.jp

HPアドレス http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp

印 刷 株式会社 北越時報社

名 称	電 話	休 館 日
中 央 図 書 館	32-0658	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日（土日祝と重なった場合は開館） 特別図書整理期間
互 尊 文 庫	35-7981	
西 地 域 図 書 館	27-4900	毎週木曜日（祝日の場合は翌日）
南 地 域 図 書 館	30-3501	毎月の末日 特別図書整理期間
北 地 域 図 書 館	22-7100	
中之島地域図書館	61-2165	
寺泊地域図書館	75-5159	
寺泊地域図書館 大河津地区図書室	0256- 97-2497	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日 特別図書整理期間
栃尾域図書館	53-3005	
文 書 資 料 室	36-7832	互尊文庫と同じ
栃 尾 美 術 館	53-6300	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） ※展示替等による臨時休館あり